日経産業新聞　2006年（平成18年）1月31日（火曜日）

自動車リサイ

一般ユーザーにも販売

調達ルート 販路に活用

同協組は昨年十一月の廃車買い取りサービス開始に伴い、全国の会員約百五十社の事業拠点に店舗機能を持たせるとともに、自動車保有者からの申し込みや見積もり依頼を受け付ける専用サイトを開設。リサイクル部品・用品を、従来の業者ルートだけでなく一般の自動車保有者からも幅広く集める体制を整えた。

今後はこの新たな調達ルートを販路にも活用。買い取りに加え、バンパーやタイヤ、カーナビゲーションシステムなどのリサイクル部品・用品のデータベースに登録して共有。会員企業が自動車修理業者などから個別受注した部品・用品の自社在庫がない場合、データベースを検索して別の会員企業から調達するネットワークを構築している。

部品・用品の在庫は同協組全体で約百五十万点に上る。会員各社はBtoB（企業間商取引）のほか、BtoC（個人向け商取引）も始めることで、販路開拓に力を入れる。リサイクル部品・用品のネット販売を活用する一般ユーザーは増えて

低価格を売り物に、廃車から集めたリサイクル部品・用品に対する一般ユーザーのニーズを掘り起こす（埼玉県の解体業者）

▼自動車リサイクル　昨年一月施行の自動車リサイクル法に基づく制度。自動車メーカーに廃車後の自動車のリサイクルを義務付け、必要な費用は自動車保有者から徴収する。財団法人自動車リサイクル促進センターのまとめでは、昨年の国内廃車引き取り台数は約二百六十六万台で、当初見込み（約四百万台）の三分の二にとどまった。

廃車台数が想定を大幅に下回った要因については、リサイクル料金支払いを避けたい自動車保有者が中古車として市場に流通させていることなどが指摘されている。このため、NGP日本自動車リサイクル事業協同組合は昨年十一月から廃車を買い取る新サービス「くるマック」を展開。リサイクル部品・用品の確保に乗り出している。

ノボノルディスクは、二〇一四年までに二酸化炭素（CO_2）排出量を〇四年比で一〇%削減する目標を設定、その実行に関して世界自然保護基金（WWF）と契約を結んだ。今後風力といった自然エネルギーの活用を増やすなどして化石燃料の使用を抑え、CO_2排出削減につなげる計画だ。

同社が契約したのは、CO_2総排出量の自主的な削減を促すWWFの「クライメート・セイバーズ・プログラム」。第三者の審査機関が削減のしてWWFに報告する。デンマーク企業で契約したのは同社が初めてで、欧州では二社目となる。

同社の〇四年のCO_2排出量は二十五万三千トン。燃料転換などの対策を打たなければ、一四年の排出量は〇四年比で約七割増えるという。

WWFと契約を結んでいるのは、ほかに米IBM、米ナイキなど九社。WWFという客観的な視点を加えることで、達成可能な範囲で目標を設定したとの疑念を持たれない利点もあるという。

転換した。草加工場（同）に続き、このほど足利工場（栃木県足利市）でも切り替えを完了した。同社の親会社、日本大昭和板紙（東京・中央）は二〇一〇年度までに、子会社を含めた二酸化炭素（CO_2）排出量を九〇年度比で一〇%削減する目標を掲げている。

足利工場の燃料転換では三億円近くを投資した。

CO_2削減効果は年間二万七千トンで、日本大昭和板紙が排出する量の一・九%に相当する。

X線回折装置

検出精度100倍に

タツタ環境分析センター　JIS制定で導入

を防ぐ

砒塚昭一社長）は、アスベスト（石綿）含有量を測定する最新型の検査装置を導入、三月に稼働させる。同月中にも建材中の石綿測定方法が日本工業規格（JIS）で定められる見通しなった。

導入するのは英スペクトリス社製の最新鋭「X線回折装置」。従来のX線回折装置に比べて百倍近く精密な測定が可能で、これまでの一般的な機種では対応しにくくなるJIS指針も満たせるという。導入費用は約二千五百万円。JISへの素早い対応を顧客獲得に

タツタ電線子会社で環境調査分析のタツタ環境分析センター（東大阪市、

スペクトリス社製の X線回折装置

つなげる考えだ。

賴が殺到。それまで年間数件にも満たなかった依賴件数が、累計で二千件を超える見通しとなっている。売り上げに占める石綿調査の割合も高まっており、現在一〇%の比率を三年後には二〇%にまで引き上げる計画だ。

日本工業標準調査会は厚生労働省の通達を基に、石綿の採取・検査方法の詳細を定める。電子顕微鏡に加え、X線による分析についても指針に盛り込む予定。国内に千五百社近くあるとされる環境関連の調査・分析会

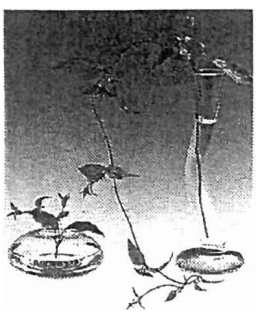
ガラス器に生まれ変わり

使用済み蛍光ランプ

使用済みの蛍光ランプがガラス器に――。ガラス製品製造の松徳硝子（東京・墨田、村松邦男社長）はリサイクル事業を手掛けるサワヤ（金沢市、尾崎東志郎社長）と組み、水銀除去後の蛍光ランプを原料にした食器や花瓶の生産・販売に乗り出す。価格は従来のガラス器と同程度に設定。

水銀を無害化　ロハス向け

持続可能な環境や社会を重視した生活スタイル「LOHAS（ロハス）」を実践する顧客層を開拓する。



松徳硝子とサワヤ

サワヤが北陸や東海地域で使用済み蛍光ランプを回収。工場で破砕したうえで加熱処理を施し、水銀を無害化して松徳硝子に出荷する。

松徳は食器など十七製品を三月一日から都内の和雑貨店で販売する。価格は一輪挿し＝写真＝が千五百円前後、コップやサラダボウルが千―二千円程度の予定。二〇〇七年三月までに約六千万円の売り上げを目指す。

シンナー廃液の再生剤

ビックツール　塗料成分を分離

【鳥取】産業機器製造のビックツール（鳥取県　をリサイクルできる再生剤を開発した。スプレー　分が沈殿して固まる仕組み。上澄みのシンナーは

ウダー」は、含水ケイ酸マグネシウムを含む自然岩石が原料で、同社が独自に加工して粉状にした。廃液に混ぜるだけで塗料成分を分離して固められるという。価格は一